

2023.11.16



地域日本語支援ニュース こだま 第437号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

■ともに生きる：東京都町田市から 新しい公的な日本語学習の取り組み～■

地域の日本語教室は、ボランティアによって支えられてきました。そんな中、特に入門期の人には公的な学びの場所も必要だと言われ続けてきており、数年前から国も事業（注1）を進めています。日本語教師とボランティアの協力による教室を求める声が高まる中、町田国際交流センターは今年始めてそのような講座を全9回で実施しました。この新しい試みを、地域日本語コーディネーターの荒明（あらあけ）美奈子さんに紹介いただきます。

（注1）

文化庁 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/chiikinihongokyoiku/

.....

町田国際交流センター主催「にゅうもん にほんご きょうしつ」

～目標は 自分のことが話せる～

町田国際交流センター 地域日本語コーディネーター 荒明 美奈子

◆町田国際交流センターの活動

町田市は東京南部に位置し、都心に通勤通学する人が多い地域で、外国人住民の比率は2.02%、8696人です（2023年9月）。町田国際交流センターは1998年に前身の町田国際協会として発足、日本語ボランティアの養成講座を開始、翌1999年に日本語教室が始まりました。現在、子ども教室を含め8クラスがあり水曜・日曜を除く毎日開催されています。どのクラスでも日本語がまったくわからない学習者への対応に苦慮しているボランティアが多いが目立ちます。

今年度は国際交流センターとして初めて日本語学習経験のない外国人を対象とした「にゅうもん にほんご きょうしつ」を開催しました。

◆2時間×9回の講座のようす

2023年8月の火曜日・金曜日午前10時から12時までの2時間、全9回の講座です。

15名の募集でしたが10名の参加者がありました。ことのほか暑さが厳しい今年でしたが、ほとんどの学習者が休むことなく参加してくれました（一部金曜日のみ参加者もいました）。中国、パキスタン、ペルー、ボスニア、ギニアなどの出身の方々です。

講師は日本語教師2名と日本語教室ボランティア6名が日替わりで担当しました。

今回の目標は、つぎの3点でした。

「簡単に自分のことが話せること」

「簡単な相手の言うことが理解できること」

「ひらがなが読めるようになること」

テキストは使わず、毎回、講師オリジナルのスライドと資料を使って学習しました。

各回30分程度のひらがな学習と次のようなテーマごとの会話を中心とした内容で、発話を促すことで進めました。

「自己紹介」「家族」「買い物」「好きなもの・こと」

「私の一日」「私の町」「復習」

◆最終日には

初日の最初はどの学習者も緊張気味で発話も遠慮気味でしたが、帰るころには緊張もかなり解け、「よろしくお願いします」がなかなか言えない学習者も、繰り返し練習しながらみんなで帰っていったそうです。とても楽しくアットホームな雰囲気の中で、講師を含めてサポートして下さったボランティアの方々とたくさん話す練習をしました。日を追うごとに発話も積極的になり、問いかけにも手が多く挙がるようになり、たくさん質問もできるようになりました。

最終日には、国際交流センターのスタッフにも参加してもらい、自分の名前や国、家族のこと、住んでいるところ、毎日の生活、好きなこと、自分の出身地（町や村）にあるものやおいしい食べ物の紹介などを、今まで学習したことを踏まえて各自が話す発表会をしました。初日の様子とはまったく異なり、全員が自信をもってとてもよく話すことができ、和気あいあいとしたすばらしい発表会になりました。私は思いのほかの出来映え（できばえ）に大感激で涙が出そうになりました。最後に全員で記念撮影をし、別れるときにはお互いにハグをしたりで、再会を期して別れました。今回の教室がみなさんの今後の日本語学習につながることを期待したいと思います。

◆学習者の望み「自分のことを伝える力をつける」

今回の講座を通して日本語初心者にも「自分のことを他の人に伝えることができる」ということが大きな喜びになることを改めて感じました。もちろん、テキストを使用した学習もそれなりの成果はあがると思いますが、それぞれが異なる自分のことを伝える力をつけることが、今後の社会参加につながるものであるのではと感じました。日本語教室では自分のことや考えを表現できるようになり、他者の言葉を受け取り理解できるようになることを学習者も望んでいると思いました。今回の講座は担当した講師たちもとても楽しくやりがいがありました。また機会があれば、ぜひこのような講座を開きたいと思います。